



# 岐阜北週報

8月 会員増強及び拡大月間

□ 題 字	谷田 育子	□ 会 長	谷田 育子	
□ 例 会	毎週水曜	□ 副会長	岡田 一二三	2012-2013
□ 会 場	岐阜都ホテル	□ 幹 事	原尾 勝	No.1458
		会報委員長	小泉 宣昭	12.8.18発行

前回の記録	本日の予定	次回の予定
第1457例会 8/8(水) クラブアッセンブリー (2) I.A.C 年次大会報告 100万\$ 担当：インターアクト委員会	第1458例会 8/18(土) クラブアッセンブリー (3) IM-A 分区合同例会 100万\$ 担当：会長・幹事	第1459例会 8/24(金) クラブアッセンブリー (4) ガバナー公式訪問 岐阜RCとの合同例会 担当：会長・幹事

## 会長挨拶 【谷田 育子 会長】

8月に入ってからの暑さは格別のもので、酷暑の方がふさわしいかも知れません。日々の報道を観てみると、オリンピックのニュースがほとんどですが戦後67年を経過して、広島と長崎に原爆を投下されてから、現在でもその後遺症に苦しんでいる人たちの様子が伝えられています。毎年忘れてはならない、被爆国日本の記録として、色々な角度の切り口から報道されていますが、今年は、福島原発事故の放射能の後遺症は、今後どの様な形で現れてくるのか、解らず、不安を抱えながら生活しておられる被災者と広島、長崎での原爆に遭われた方との対話などが新しい切り口として報道されています。広島、長崎では直接的な被爆が大きかったために、それらの資料は、日本にも投下したアメリカにも、多く残されていますが、その後の残留放射能に依る内部被爆の資料は、多く残っていないのが現状のようです。

そのため、今回の原発事故での内部被爆の様な症状でも、放射能汚染に依るものであるかどうかの直接的な因果関係は認められないと発表されています。これから先、何年経過しても、体内に取り込まれた放射能は減ることなく、留まり続けて、外に排出されることもないそうです。福島原発事故で現場に留まり、人頭指揮をされた東電の吉田所長は、喉頭癌で退職されたようですが、それもほとんど報道されていない様です。

原爆が出来たのは、1941年の事で、これを開発した科学者とアメリカは、改良を重ね実用

## 会長挨拶 続き

出来るまでに完成させた時、試験的に人間に試してみようとの事で、最初の目標はドイツだったそうですが、同じ白人には試しがたく、日本が目標にされて、それも広島はウランで、長崎はプルトニウムと、それぞれ違った種類でした。二つの種類であればデータが多く取れて、同じ日でなく、少し間を開ければ、両方共に確実に取れるとの事で実行された様です。1945年8月テニアン島から飛行機が核を搭載して、広島上空に来た時も長崎上空に来た時も、共に快晴だったそうです。

この様な悲劇は絶対に起こしてはならないし、どんな人間が賢く、化学が進歩しても、人間の手で制御し、終結出来ないものの領域には入っては行けない事にもっと早く気付くべきであったかも知れません。

## 出席報告

会員数：30名  
出席数：26/30  
出席率：86.67%  
欠席者：4名（出席免除2名 93.33%）

岐阜城北高校 インターアクト部  
顧問 赤坂 敦子 先生  
インターアクター 宮川 葉 様  
インターアクター 山田 玲佳 様  
インターアクター 国江 遥菜 様

## ニコニコBOX (敬称略)

谷田育子 インターアクト年次大会に出席されたインターアクト部の皆さんお疲れさまでした。

原尾 勝 岐阜城北高校インターアクト部の皆様をお迎えして

岡田 忍 岐阜城北高校インターアクト部の皆様ようこそ

若山 和正 熱中症には気をつけて

竹村 博之 山口会員お世話になりました。

前田 吉彦 本日岐阜城北高校インターアクト部の皆さんをお迎えして年次報告をして頂きます。  
宜しく申し上げます。

## 委員会報告事項 (敬称略)

○社会奉仕(環境保全) 委員会 波多野 光裕  
長良川清掃を行いました。



## 幹事報告事項 (敬称略)

○幹事 原尾 勝  
定例理事会の報告。  
10月長良川清掃と地区大会が重なり、長良川清掃を辞退する。CLPプランのアンケート依頼があり、次年度以降で検討する。

・IMの日程  
8月18日岐阜グランドホテル  
10:00開会 12時昼食

・ガバナー公式訪問  
8月24日岐阜都ホテル  
12時30分開会、13時閉会  
(会長幹事懇談会 11時45分開会)

・長良川RCとの合同例会変更  
9月26日(水) 18時30分開会

本日例会終了後に臨時理事会を開催します。

## クラブアッセンブリー (2)

インターアクト委員会 前田 吉彦  
インターアクトクラブ年次大会 報告

第35回 インターアクト年次大会に出席して  
岐阜城北高等学校 インターアクト部  
3年 部長 宮川 栞

1泊2日の鈴鹿でのインターアクト年次大会では、様々なことを体験しました。開会式では三重県知事の鈴木さんの挨拶で、「自己のために働くのではなく、他者のために働く」という言葉が印象に残っています。その後、鈴鹿サーキットへ移動し、遊園地内での自由時間では、乗り物に乗ったり、アイスを食べたりと、楽しむことができたので、とても感謝しています。鈴鹿サーキットの施設内で夕食を食べるときには、ほんの少しですが海外の生徒と交流することもできました。2日目には、オーストラリアからの留学生の発表を聞いたり、飯野高校吹奏楽部の演奏を聞いたり、デザイン科のファッションショーを見たりしました。この年次大会は、私にとって、これらの楽しい体験をするだけの場ではなく、外国へ興味を持つきっかけや、世界共通言語である英語の必要性を改めて実感する場となりました。というのは、海外から来ている生徒がわたしと友人に話しかけてくれた時に、わたしたちは、その子の言っていることがあまり理解できず、もどかしい思いをしたからです。今後は、英語の授業に、積極的に参加していこうと思いました。今回、このような機会を私に与えていただき、ありがとうございました。



岐阜城北高等学校 インターアクト部  
2年 國江 遥菜

私は、すごく韓国に興味があり、去年の6月からハングルを習いに行っています。このインターアクト部のおかげで、韓国の方と話すことができました。私は年次大会に韓国語で書いた手紙を持って行きました。辞書などを使い頑張って書きました。

## クラブアッセンブリー 続き

した。夕食交流会では、4人の韓国の方と話すことができました。少しの間でしたが、お互いに話すことができ、すごく楽しかったです。でも、宿泊先が韓国の子と同じではなく、すこしがっかりしました。2日目は、ファッションショーと英語落語を観ました。私は、韓国の方が落語を理解できるのかなあとと思いながら落語を聞いていたのですが、韓国の学生は落語を聞き、とても楽しんでいる様子でした。ファッションショーの時は、みんなカメラを向けて写真を撮っていました。年次大会閉会式の後、交流会で話した韓国の子に手紙を渡しました。そうしたらとても喜んでくれたので、私もすごく嬉しかったです。そして一緒に写真も撮りました。韓国への派遣学生の話聞き、是非私も韓国へ行きたいなと思いました。岐阜北ロータリーの皆さん、その時はよろしく願いいたします。今回韓国語を習う私に、実際に韓国人の方と触れ合う機会を与えてくださり、本当に感謝しております。ありがとうございました。



岐阜城北高等学校 インターアクト部  
2年 次期部長 山田 玲佳

私たち岐阜城北高等学校のインターアクト部は、年間を通じて長良川の清掃活動、校門の清掃活動、ペットボトルキャップの回収を行っています。発展途上国の子どもたちにポリオワクチンを提供するために、昨年は、約4万8千個のキャップを回収し、約60人分のワクチンを提供することができました。今は、昨年よりも多く回収できるように頑張っています。また、昨年の冬は、東日本大震災の復旧支援のために、駅や学校などで募金活動を行いました。学校内では、三者懇談期間中に行いました。生徒はもちろん、保護者や先生方も多く募金してくださいました。その結果多くのお金が集まり寄付することができました。しかし、まだ東日本は復旧できていません。今、自分達に何ができるか

## クラブアッセンブリー 続き

をしっかりと考え、これからも募金活動を続けていきたいです。

今回のインターアクト年次大会では「鈴鹿から始めよう！多文化共生とグローバル・コミュニケーション」というテーマで、約400人が参加しました。私が印象に残っているのは、夜の交流会です。違う高校の方とはもちろん、韓国の方々とも交流しました。国が違い言語や文化が違っていても、そんな事を感じさせない明るい人たちが沢山いました。このような貴重な経験をし、歓迎の言葉のように、「外国の方との交流を通し、文化的な違いを認め、社会人として共に協力していくことが大切だ」と思いました。共に協力していくことができるのなら、平和な世界が成り立つと思ったからです。このようなよい刺激を受ける機会を作っていただいた岐阜北ロータリークラブの皆さんに心から感謝いたします。ご清聴ありがとうございました。



岐阜城北高等学校 インターアクト部  
顧問 赤坂 敦子

日頃は、岐阜城北高等学校へのご支援ありがとうございます。本校は国際的視野に立ち、思いやりの心をもつ生徒の育成を教育目標の一つに掲げ日々教員一丸となって指導しております。

今回の年次大会では、オーストラリアや韓国からの留学生が楽しみながら日本の文化を吸収している姿がありました。本校生徒たちは、彼らの姿を目の当たりにし、国や文化の違いを越えて人と関わることへの興味や関心を深めたのではないかと感じています。

最近の学生は、就職や進学においても親元を離れたくない、外に出たくないまま海外にまでは、という傾向があるようで、なかなか積極的に国外の方々と関わるチャンスがありません。そんな中、このような貴重な機会を与えていただき、本当に感謝しております。ありがとうございました。

## クラブアッセンブリー 続き



## 次回例会のご案内

第1459回 例会 8月24日(金)  
クラブアッセンブリー(4)  
ガバナー公式訪問  
岐阜RCとの合同例会  
担当者：会長・幹事

会報・広報 8月担当 前田 吉彦